

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 3月 16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104310		
法人名	広島常光福祉会		
事業所名	グループホーム げんき中山		
所在地	広島市東区中山新町三丁目18番6号 (電話) 082-508-4188		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470104310&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成23年2月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者が張りのある生活が送れるよう、食事作りや掃除など1人ひとりに合った役割を持ってもらうことや、町内会活動、地域交流を含めた季節に応じた行事の提案を行っている。また、職員の技術向上の取り組みとして、施設内での毎月の勉強会、法人外の研修参加、フロアーリーダーによる個別指導などを行っている。</p> <p>グループホームげんき中山は、母体組織や関連の福祉・介護事業所との連携や、家族・地域とのきめ細かい関係づくりを心掛けて取り組んでいる。又、ホームのテラスから広島市の町並みや、遠くには海が見えるといった自然の中で、地域の人と触れ合う地域交流や、月に1度は季節に合った行事を行い、会話や他者との触れ合いを通じてその人がいつまでもその人らしい生活を送って頂けるよう支援している。日常生活では、食事当番や散歩、手芸等個々の負担にならない程度に役割や趣味を一緒に楽しむよう支援している。そして安全に生活して頂けるよう職員同士日々声を出し合い事故に繋がる可能性のある環境、状況等の改善に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームげんき中山（以下、ホーム）は、閑静な住宅街にあり、周辺地域を一望できる高台にあります。豊かな自然もそのまま残っており、季節を肌で感じながら散歩や野菜作りを楽しむことができます。</p> <p>ホームは、特別養護老人ホームを母体とする社会福祉法人であり、これまでに蓄積された福祉の経験を活かした地域密着の支援を提供されています。</p> <p>家庭的な環境、馴染み関係を断ち切らない暮らしの支援に努め、利用者の笑顔が絶えないケアをめざしています。また、家族間交流も積極的に行われており、利用する側の意見をできる限りケアに反映させていくための取り組みを積極的に進めています。</p> <p>利用者、家族にとって何よりも心配な医療については24時間体制で臨まれています。かかりつけ医は運営推進会議で、直接意見や相談を受け可能な範囲で助言をされたり、複数の協力医療機関との連携から利用者の急変にも対応できる体制が整えられています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(西ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員全員参加にて理念をつくり、毎日朝礼にて復唱し、常に頭に入れ、理念のもと業務に取り組むよう心掛けている。	ホームは、法人理念に沿った事業所独自の理念「明るく、楽しく、健やかに」を掲げ、利用者の笑顔を大切にしたケアに取り組まれています。また、朝礼時に唱和するなど常に理念に立ち返ることに心がけ、共有を図られています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事、公民館行事、町内会行事には、積極的に入居者と参加し、交流を深めている。年1回、当ホーム主催の地域ふれあい夏祭りを実施し、地域交流に努めている。	町内清掃や地域行事には、利用者と職員が参加し地域密着型のホームとして積極的に交流されています。また、地域の小・中学校から行事への参加の誘いを受けたり、ホームも職場体験の受け入れを通じてお互いに行ったり来たりする間柄を築かれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の中学生の職場体験学習の受け入れを行い、ホームの役割、高齢者や認知症についての説明を行い、理解を深めるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居状況、行事報告やホームでの取り組み状況等を報告し、構成員からの意見を参考にして、サービスの向上に活かすようにしている。	運営推進会議には、かかりつけ医が毎回参加しているので、簡単な質問や相談も直接助言を受けることができます。今年度は、災害時における地域との助け合いについての意見を受けて、会議参加者と一緒に避難訓練を実施しました。課題や意見を会議の中で話し合い、共に協力していくための場としても活用されています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	用件がある時は、直接出向いたり、電話連絡するようにしている。	ホームは、地域包括支援センターの主催する「いきいきクラブ」への参加や認知症講座の講師としても協力されています。利用者の中には、被爆された利用者もいることから、相談窓口の行政と協力し合っ	て進めています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	テラスや畑等、ホームの敷地内は自由に出入りが行えるようになっているが、玄関は施錠している。利用者が屋外に出ることを希望する場合は、可能な限り付き添うようにし、身体拘束をしないよう努めている。	ホーム内は、いつも職員が見守ることができるよう細部にわたって工夫されています。また、広いベランダや菜園には、いつでも自由に出入りできます。活動しやすい環境の中で見守りを第一とした拘束をしない安全確保に向けた支援に努められています。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	勉強会等で虐待について学ぶ機会を設けたり、虐待に関する研修があれば、職員を参加させ学ぶ機会を設けるようにし、虐待防止に努めている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	必要な人には活用できるよう支援していく。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	入居契約時、必ず本人や家族に口頭、書類にて十分な説明を行い、同意を得るようにしている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	玄関内に意見箱を設置し、自由に記入できるようにしている。利用者や家族からの苦情等があった場合は、職員に伝達し、早急に対応、解決するように努めている。	家族会が組織され、家族同士の交流が図られています。年1回開かれる総会では利用する立場から色々な意見が出ています。この意見は、運営推進会議や直接ホームに届けられ、検討、共有が図られています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見は積極的に聞くようにし、それらをもとに業務内容等の改善を行っている。月1回、フロアー会議を開催し、意見や提案を聞き、話し合いの機会を設けている。	職員の意見は、フロア会議の中で話し合われています。会議には、ケアや運営に関することなど多岐に渡り、意見や提案が出され、職員の意見を改善に繋げていく仕組みがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事評価の摘要や法人内での異動の希望を確認している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の育成段階に応じた指導や係りの割り当てを行っている。またその段階に応じた研修への参加の機会を設けている。月1回の勉強会では、担当制にして行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的に同法人の地域密着型施設と合同会議を開催し、情報交換をしており、他施設の良い所は取り入れるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人から今までの生活状況や環境希望、要望を聞き、安心して生活できるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族には入居に至る経過やホームでの生活への希望、要望をよく聞き、信頼関係が築かれるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族とよく相談し、必要とされるサービスに優先順位をつけ、暫定介護サービス計画の同意のもとで行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人と職員が一緒に生活しているということを心掛けながら、料理、掃除など家庭で行っていた事を出来る限り一緒に行う中で、楽しみ、支え合う関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族との関係や現在までの背景の理解に努め、共有した中で支援するよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の協力による外泊や面会、ホームではドライブや行事などできる範囲で取り入れ支援している。	以前関わりのあった福祉関係者が時折訪ねて来られ、懐かしく会話をされ、利用者の暮らしぶりを応援されます。元気な頃に出かけていた場所まで家族と一緒にドライブしたり、泊まりで帰宅して家族と共に過ごしたり、利用者の気分転換と思い出作りを兼ねた支援が図られています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を配慮しながら、食事の席を決めている。日常生活やレクリエーションで皆と関わり合える機会を作り、利用者同士で助け合っている時は見守るように心掛ける。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約時に退居後の事まで前もって説明し、安心してサービスが利用できるように支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話の中や行動を観察し、得意な分野の把握に努め、得意な分野は積極的に参加を促している。	日頃の関わりから得られる一人ひとりの能力をしっかりと把握し、興味のあることやできることが継続できるよう支援し、張りのある暮らしにつなげています。職員だけでは、把握できない元気な頃の様子を機会あるごとに家族から聞き、得られた情報をケアに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴アンケートを行っている。又、本人からは生活歴などを日頃の会話の中から聞き出し、把握を務めている。又、必要に応じて家族から生活歴などを聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケア記録やフローア伝達ノート、フローア会議を通じて現状把握するようにしている。又、職員同士で情報交換を密にして把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>カンファレンスではできるだけ多くの職員が参加できる時間帯に行っている。本人、家族からの要望などを取り入れた介護計画を作成するよう心掛けている。毎月月初めにケース担当者が各プランに対し、モニタリングを行っている。</p>	<p>毎回行われるモニタリングをもとに3か月ごとに計画の見直しが行われています。家族の要望や一人ひとりの問題点を話し合い、医療面からの意見や助言は医師、看護師から受けるなど複数の職員による利用者の現状を踏まえた計画が作成されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>誰が見てもその状況が分かるように、わかりやすい言葉で記録を書くようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>社会福祉法人が母体であり、法人も持つ多種に渡る事業、運営施設との協力関係を受けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の公民館での活動参加、町内会活動には、利用者と一緒に参加している。地域包括支援センターが行っている催し物等にも参加している。消防署・地域住民の協力を得て、合同の消防訓練を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>各種の協力病院があり、希望の病院や必要な医療を受けるために、日頃から連携を取りながら支援している。必要に応じて往診や入院の受け入れ体制を整えている。</p>	<p>利用者の希望するかかりつけ医や複数の協力医療機関と連携した受診体制をとられています。基本的には家族が付き添っていますが、家族の事情も考慮して職員の付き添いも可能としています。24時間体制で急変に対応できるよう医師との連携も整えられています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	週1回、いくたに内科クリニック訪問看護師に定期訪問してもらい、指導や助言を受けている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には、家族との連絡を行い、状態確認や退院後の支援方針について話し合うようにしている。また、日頃よりかかりつけ病院と連携を取りながら関係づくりを行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入居時に重度化や終末期の方針について書面にて確認を受け共有している。又、家族に連絡を行い、状態を説明し、家族と話合って決めている。また、重度化や終末期に向け、チームで支援できるように取り組んでいる。	可能な限りホームでの暮らしが続けられるよう医療連携を図りチームで取り組まれています。また、看取りについては家族、医師との話し合いを重ねながら、ホームとしても現状を踏まえて支援されています。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	マニュアルを作成しており、いつでも目につく事務所に設置している。緊急対応について、定期的に勉強会などで、実践を取り入れた訓練、指導を行っている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回、日中・夜間を想定した防災訓練を行っている。夜間想定時、消防署・地域住民を交えて、合同の消防訓練を行ったり、また、運営推進会議にて地域の人々の協力を得られるように働きかけている。	年間消防防災計画が作成されており、避難訓練や機器点検、自主点検を行うなどの取り組みがあります。また、運営推進会議でも災害時における地域との助け合いについて説明し、地域住民とともに訓練を実施するなどの協力関係作りに努められています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理解しやすい言葉で対応するよう心掛けている。本人の思いや訴えに対して話を聞き、本人の思っている現実を受容し、否定しないような返答するよう努めている。	職員は利用者と視線を合わせ、ゆっくりと穏やかに話をされています。職員主導にならないように常に利用者の思いを大切にされた支援を心がけています。また、写真掲載や居室の名前表示などにも了解を得ることを徹底させ、個人情報の取り扱いにも配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	理解しやすい言葉かけを行い、話を聞くようにしている。又、自己決定が難しい人には選択の中から決めてもらうように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の状態や希望に沿って、ゆっくりとした生活時間の中で、食事、入浴、日常生活全般を支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一緒に服を選んだり、外出時は外出用の服を選んだり、その場に応じた服装の選択を行っている。理美容は契約時に出張サービス等を利用するか聞いて行っている。月に1度理美容院を招き、本人や家族の希望に沿った利用をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、片付けは本人の能力に応じ、食事当番を設けている。食事当番表を作成し、わかりやすくしている。	ホームでは、毎食職員による手作りの料理が提供されています。野菜、肉、魚などバランス良い食材と温かいものや冷たいものを美味しく食べていただけるよう努められています。調理、盛り付けや後片付けなど好きなこと、できることを役割分担してもらい、張りのある暮らしに繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	バランスの良い食事を提供するようにしている。特別食(カロリー制限、減塩食、糖尿食)が必要な人にも配慮した食事を提供している。必要に応じて食べやすい形態で提供するよう配慮している。食事摂取量を記録しており、摂取量の把握や摂取量の変化に注意をしながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きをするよう声掛けを行い、自らは行える範囲は行ってもらい、不十分なところを介助し清潔を保持している。毎週日曜日の夜はポリデント洗浄剤を使用している。週1回、歯科往診があり、家族の了解のもと、希望者や治療の必要な方は、口腔内を診てもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要に応じて排泄管理表を使用し、随時誘導を行っている。又、日中と夜間で使用する排泄用具を変更したり、バットも3種類準備し、個々に合わせて使用している。状態に変化があれば、排泄担当者が中心となりすぐに話し合い、対応方法の検討を行っている。下剤調整も行っている。	排泄管理表には、利用者の顔写真が添付され、新人職員にも状態が詳細に分かるよう工夫されています。トイレのドアには、涼やかな音色の鈴が取り付けられ、排泄に関する事故予防の観点と一人でトイレに行く利用者の安全と羞恥心に配慮して対応されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日頃の食事で繊維を多く含んだ物や、おやつで牛乳を提供している。入浴後には水分補給に努め、ラジオ体操やリハビリ体操を取り入れ、運動の機会が定期的なように、働きかけを行っている。また、必要に応じて下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日入浴可能な状態で、本人の状態に配慮しながら、入浴の誘導を行っている。個人によって、回数や入浴時間等が異なる為、本人のペースでの支援をしている。	利用者の希望を優先して、時間帯や回数にもなるべく浴よう支援されています。家庭用の浴槽で、ゆったりと自分のペースで入浴ができるよう、自宅での入浴習慣を尊重した支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の状態に配慮した上で、日中にレクや日常生活の支援、活動の場を設けることで、心地良く眠れる環境作りを心掛けている。個人の馴染みの布団や枕等を使用している。エアコンで居室内の温度調節をし、快適な睡眠ができるよう配慮している。また、眠前薬の服用時間にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医の指示を受け、薬担当者が中心となり内服薬、外用薬を把握し管理しており、職員全員が同じ支援ができるようにしている。処方箋を個人ケースに綴じており、いつでも確認が可能である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の希望や出来る事を見つけ、フロア会議やカンファレンスで検討し、個々に合った役割分担を提供している。また楽しんで役割を行う事が出来るよう、体調や気分にも配慮し提供するように努めている。嗜好品も希望があれば持ち込み自由であるが、管理が必要な方には本人、家族の同意のもと預かり管理している。入居時に生活歴アンケートを実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	必要に応じて外出している。ただ全員参加が難しいので、希望者や順番に出掛けている。施設の買い物の際は、財布を自分で管理している利用者と共にスーパーに出掛けたりしている。日常生活の中でも外気浴や散歩の時間を設け、状態によって行っている。又、ご家族の協力もあり、家族と一緒に外出・外泊されている。	ホーム周辺は、自然がそのまま残っており日常的な散歩コースとして楽しんでおられます。外食や食材の買出しなどドライブがてらの外出もありますが、時には遠方に日帰り旅行もされています。昨年は、野球観戦に出かけ楽しいひと時を過ごされました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には小口預金通帳で管理するも、自分で小銭を所持したい人には家族の同意の上で行っている。本人が欲しいものがあれば、一緒に買い物に行ったり、希望のものを購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話、手紙は自由にやりとり可能で、必要に応じて支援している。電話は居室内で会話できるように子機を準備している。また希望により携帯電話を所持している方もおり、操作が分からない場合は援助している。手紙は直接本人に渡し必要に応じて代読している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	台所、洗濯場等も出入り自由である。季節感を大切に、利用者と一緒に作成して飾り付けを行っている。席も仲の良い利用者で座れるように配慮している。トイレでは入居者の水の流し忘れがあり、それに対して不愉快な気持ちになる入居者もいる。流し忘れに対して、職員が定期的に確認しているが、完全に防ぐ事が出来ていない。室温調整や細めに換気を行っている。	日中の殆んどを過ごすリビングや居室には、穏やかな日差しが差し込み、地域を一望しながら季節を感じることができます。また、リビングからベランダや菜園に自由に出入りでき、日向ぼっこや野菜作りを楽しむこともできます。一人ひとりのアルバムや季節感ある飾りものなどが家庭的な雰囲気を醸し、家族にとっても訪問しやすいホームです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはテレビ、ソファを置き、玄関内にも椅子、テーブルを置きくつろげる空間作りをしている。気の合った利用者同士がお互いに居室を訪問する時もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込みは基本自由に行っている。安全に考慮した上で自由にレイアウトしている。	家で使用していた家具や写真、寝具などが持ち込まれ、入居後も安心して過ごせるよう配慮されています。また、仏壇を持ち込んでいる利用者もあり、毎日花や水を供えて、元気な頃からの習慣を大切にしたい暮らしを支援されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の名前やトイレ、お風呂は大きく表示されている。利用者にとって不都合な事があればすぐに対応している。今月の予定、お知らせコーナーを掲示することで、自分で行動する利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(東ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員会議にて話し合い、意識を統一し、理念の実践に向けて日々の業務に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事、公民館行事、町内会活動にできるだけ参加協力し、入居者と一緒に交流を深めている。また年1回、当ホーム主催の地域ふれあい夏祭りを実施し、地域交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の中学生の職場体験学習の受け入れを行い、ホームの役割、高齢者や認知症についての説明を行い、理解を深めるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居状況、行事報告やホームでの取り組み状況等を報告している。また議題を決め話し合い、構成員からの意見を参考にし、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	用件がある時は、直接出向いたり、電話連絡するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホーム内では可能な限り、自由に過ごして頂いているが、興奮、不穏な状態で過ごされる方もおられ、職員の目がいきとどかない事も考えられる為、玄関は、ホーム内から出る時のみスイッチを押さなければ開かない仕組みになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	皮膚剥離、傷、皮下出血等発見した場合はすぐにヒヤリハット・事故報告書を提出し、カンファレンスを開き考えられるだけ原因を洗いだし再発防止に努めている。また、リスクマネジメント等の講義に受講する機会もあり、その後他職員へ伝達することでより入居者の事故へのリスクを考慮した介護サービスを提供している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要な人には活用できるよう支援していく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時、必ず本人や家族に口頭、書類にて十分な説明を行い、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関内に意見箱を設置し、自由に記入できるようにしている。利用者や家族からの苦情等があった場合は、職員に伝達し、早急に対応、解決するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度全職員が参加する会議、フロア職員のみが参加する会議を開き、職員の意見をもとに入居者への対応、業務内容の改善を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事評価の概要や法人内での異動の希望を確認している。また、必要に応じて面談を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の育成段階に応じた指導や係りの割り当てを行っている。当ホーム内では月に1回勉強会を行っており、勉強会では担当制にしている。またその段階に応じた法人外の研修もできるだけ参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的に同法人の地域密着型施設と合同会議を開催し、情報交換をしており、他施設の良い所は取り入れるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	不安無く落ち着いた生活が送れるよう、職員との信頼関係を構築し、希望・要望などを訴えやすい環境を作っている。また、他入居者との交流の場などでは、職員が間に入り、とけこみやすい環境作りといった面でも配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族には入居に至る経過や、ホームでの生活への要望、希望をよく聞き、信頼関係が築かれるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族とよく相談し、必要とされるサービスに優先順位をつけ、暫定介護サービス計画の同意のもとで行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホームでの食事作り、洗濯の作業などを職員と共に行なって頂く事などで、入居者本人に達成感を感じてもらい、職員と協力して何かを行うことで、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会、行事などで家族にホームに来て頂き、本人と家族との定期的なふれあいをもってもらうことで、孤独感を感じることのないような配慮を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の協力(正月の外泊、墓参りなど)や、ホームでは、ドライブや行事等で出来る範囲で取り入れ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや家事などの作業を他者と共に行なってもらい、そういった交流の場で関わる事で利用者同士の信頼関係を持ってもらい、生活しやすい環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約時に退居前後の事まで前もって説明し、退居前にも本人・家族からの相談に乗り、安心してサービスが利用できるように支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話の中や、行動を観察し、得意な分野の把握に努め、得意な分野は積極的に参加を促している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴アンケート調査を行っている。また、本人からは生活歴などを日頃の会話などから聞き出し把握に努めている。家族に対しても、必要に応じて生活歴を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録やフロアー伝達ノート、フロアー会議を通じて現状把握するようにしている。また、職員間での情報交換を密にして把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスは出来るだけ多くの職員が参加できる時間帯に行っている。本人、家族からの要望を取り入れた介護計画を作成するよう心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録や、職員間の報告・連絡を行う事で情報の共有を行い、入居者のケアの見直し、改善を職員間で話し合う事で、入居者のケアに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	社会福祉法人が母体であり、法人の持つ多種にわたる事業、運営施設との協力関係を受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の公民館での活動参加、町内会活動には入居者と一緒に積極的に参加している。地域支援包括センターが行っている催し物にも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	各協力病院があり、希望の病院や必要な医療が受けられるよう、日頃から連携を取りながら支援している。必要に応じて往診や入院の受け入れ体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回、いくたに内科クリニックの訪問看護の往診を行っており、その際、看護師から助言、指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族とも連絡を行い、状態確認や退院後の支援方針について話し合うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の方針について書面にて確認を受け共有している。また、家族に連絡を行い、状態を説明して家族と話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時のマニュアルを作成しており、事務所内いつでも目につくように掲示してある。また、定期的な実践を取り入れた訓練の実施、緊急時の対応についての勉強会、指導などを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の方、町内会の方と合同でホームでの災害を想定した訓練を行っている。また、運営推進会議で話し合い、町内会などの地域の方の協力を得られるよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の性格を理解し、言葉や行動を出来るだけ受け入れる事で本人の誇りやプライバシーを損ねないような対応を取っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	初めから職員が物事を決め、入居者に共感を求めるのではなく、入居者が自己決定しやすい言葉を選び声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に優先順位を考え業務に取り組み入居者のペースを乱さないよう努めている。本人から希望等あれば可能な限り実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日の衣類を職員と一緒に選んだり、外出時や行事のある時は外出用のいつもと違った雰囲気の衣類を職員と一緒に選んでいる。又、お化粧をする事でいつもでもその人らしく過ごせるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々に合った内容の食事準備、片付けを職員と一緒にやっている。時折、入居者の意見も取り入れ、カップラーメンやお好み焼きの出前を注文する事で食事にあきず、楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	その方の体調、状態にあった食事量、食事形態で食事を提供している。自力摂取の難しい方は介助を行う事で最低限の栄養、水分量を確保している。又、食事を摂る事が難しい方に対しては経腸栄養剤を摂取して頂く事で必要最低限の栄養を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行い、介助の必要な方は職員が対応する事で清潔保持に努めている。週に一度日曜日にポリデントを行い、義歯の清潔も徹底している。又、週に一度歯科往診をする事で治療の必要な方は清潔な状態を保持できるよう対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定期的なトイレ誘導を行う方もいれば、トイレへ行かれた時に下着の確認を行うなど、本人の自立に向けた個々に合った排泄対応を行っている。又、パット、リハバン、おむつ等本人に合った排泄用具を日中と夜間で使い分ける事で自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	定期的な朝食やおやつ時に乳製品や野菜ジュースなどの食物繊維のある食材を取り入れ、食事面でも排便の働きかけをしている。排便困難2日、3日目には個々の状態にあった下剤を服薬する事で便秘を予防する取り組みを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を希望される方や、前回入浴してから日にちが空いている方などに声を掛け、本人のペースで入浴を行っている。入浴が好まれず、前回の入浴から日にちが空いている方に対して、本人の気分を損ねないよう声掛けに注意し、又、職員間で声を掛け合い男女職員が入れ替わって対応するなど、個々に合った入浴の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中レクリエーションを通じて体を動かしたり、個別レクリエーションをしたり、食事当番など役割を持ってもらい、夜間良眠できるよう支援している。夜間不眠時や日中疲れの見られる入居者には、日中居室で休んでもらうなどの支援を行っている。必要に応じて眠前薬を服薬している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の影響により、歩行状態、集中力や注意力の低下等が見られ、日常生活に大きな支障があれば職員間で話し合い、主治医と検討行う事で本人に合った内容の薬を服薬出来るよう支援行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の希望や出来る事を見つけ、フロア会議やカンファレンスで検討し、個々に合った役割分担を提供している。嗜好品も希望があれば持ち込み自由であるが、管理が必要な方には本人、家族の同意のもと預かり管理している。入居時に生活歴アンケートを実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節に合わせて花見、紅葉を見に出かけたり公民館の催し物、体操の参加や本人の希望で野球観戦、交流会など入居者の要望に応じて支援している。家族の協力もあり年1回日帰り旅行を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本は小口預金通帳で管理しているが、自分で小銭を所持したい入居者の方は家族の同意の上で管理しいつでも使えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話、手紙は自由にやりとり可能で、必要に応じて支援している。電話は居室内で会話できるように子機を準備している。また希望により携帯電話を所持している方もおり、操作が分からない場合は援助している。手紙は直接本人に渡し必要に応じて代読している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な作りになっており、過ごしやすい環境になっている。玄関や居間は季節に応じて飾り付けをし工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースにはテレビ・ソファを置いてある。庭には植木や畑があり、そこにベンチを設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込みは原則自由になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の居室・トイレ・浴室は大きく表示されている。フロア内には今月の予定・お知らせを掲示している。		

V アウトカム項目(西ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームげんき中山

作成日 平成 23年 1月 25日

【目標達成計画】 西ユニット

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	利用者に対して, 不適切な声かけや対応を行っていることがある。	利用者の思いや訴えに対して, しっかりと傾聴し, 安心できるような接し方で対応する。	不適切な声かけや対応を行っている職員に対して, その都度指導する。フロア一会議で話し合い改善する。	6か月
2	13	決まり事が徹底されていないことで, 利用者に対して職員間で不都合が生じることがある。	統一したケア・業務を行う。	決まり事が守れていない職員に対しては, その都度指導する。フロア一会議で話し合い改善する。	6か月
3	34	利用者の急変時や事故発生時の対応方法の理解が不十分である。	急変時や事故発生時の対応方法を十分に理解する。	定期的に勉強会を行う。急変時や事故発生時, 状況に応じて指導しながら対応する。	12か月
4	27	記入漏れや記入方法の間違いなど, 記録の不十分なことがある。	記入漏れや記入方法の間違い等を無くし, 十分な記録を行う。	記入漏れや記入方法に間違い等があった場合, 速やかに伝達し, 記入・訂正を行う。	6か月
5	35	町内会において防災体制が築かれておらず, 地域との防災協定が締結されていない。	地域との協力体制を強める。	運営推進会議等で呼び掛けていく。地域を交えた消防訓練を継続して行っていく。	12か月
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。

V アウトカム項目(東ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームげんき中山

作成日 平成 23年 1月 31日

【目標達成計画】 東ユニット

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	職員会議やカンファレンス時に、みんなで決めたことが徹底されていないことで、入居者や職員で不都合が生じることがある。	統一したケア・業務を行う。	統一したケア・業務の必要性を理解してもらった上で、職員会議等で職員間で共有していく。	12か月
2	34	利用者の急変時や事故発生時の対応方法の理解が不十分である。	急変時や事故発生時の対応方法を理解し対応できるようになる。	定期的に勉強会を行う。また、マニュアルの見直しを行う。急変時や事故発生と一緒にを行う。	12か月
3	29	地域の行事には、できるだけ参加しているが、活動内容によって参加が難しいことがある。	地域との交流に積極的に参加し続けることができる。	公民館や町内会の活動に積極的に参加していく。	6か月
4	13	職員の育成段階に応じた教育指導を行っているが、実際には苦慮している。	職員のやる気を保ちながら、職員全体で向上していける環境づくり。	個人のレベルに合わせた教育指導を行う。	12か月
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。